

Q: 原材料高騰や震災の影響による部材調達等で変動費が上昇していると推測するが中期の目標の考え方に変更はないか？

A: 中期的な展望は変更していない。変動費・製造固定費を合わせて売上原価率58%を目標としている。終わった2010年度の実績は62%程度と少し高いイメージがあるが、銀・銅の高騰が影響している。

Q: 製造固定費を売上の1/3に抑えるような目標を設定されていたが2010年度の固定費の伸びの状況について教えてほしい。また、2011年度の設備投資やR&D費の伸び、投資に関してどのように考えているか？

A: 1/3に抑えるのは、売上に対して経費の伸びで終わった期は範囲内にある。今後の考え方はCMOによって標準化を推進しITなどを活用し、投資に対して高いパフォーマンスを出せるような仕組みに変えていくことを考えている。設備投資額は今後最終的につめていくが、300億円程度にしたいと思っている。

Q: 次期社長の山田氏にお伺いしたい。中長期にどのように目標や取組みを設定するのかを聞きたい。

A: 中長期のビジョンについては7月頃に改めて投資家様へお伝えしたい。収益と成長を高めていくことを考えており、当面は原価率58%を目指して施策を実行していく。オムロンは5つの事業セグメントと新規事業部門があるがタテとヨコとの連携を強化してトータルで収益構造を確立していく。事業ではIAB、EMCを強化し、エリアでは新興国に注力する。また、新規事業では環境ビジネスに強化していきたいと考えている。

Q: EMCは原材料価格高騰の影響により2011年度の原価率は上がる可能性があるのか？

A: ご認識の通り1Qでは厳しいと考えている。2Q～4Qでは改善し、年間を通じて抑えることを考えたい。

Q: IABの状況について震災前後で国内外のBBレシオがどのように変化したかを教えて欲しい。また、受注には前倒し発注なども含まれているのか？

A: 国内のBBレシオは震災前後で高くなっており、2月末は1を切る水準だったが、震災後は1を超えるレベルになっている。ご指摘のとおり、前倒し発注なども含まれていると考える。また、海外は日本ほど精度が高くなく、受注についてリスクが多いが、国内ほど震災の影響で受注が増えているわけではない。

Q: 震災の影響で中長期の打ち手をどのように考えているのか？

A: 部材調達の強化など、緊急で対応すべき取組みはすでに開始している。中長期の拠点戦略などは今回の震災を受けて見直す必要があるかもしれない。

Q: 2010年度のSSBの実績が1月の見通しと乖離しているが、その要因として期ずれはあるか？また、その状況は2011年度の1Q見通しに折り込んでいるか？

A: 震災の影響等で期ずれが起きているとの認識しており、2011年度の1Q見通しには折り込んでいる。

Q: 終わった期のR&Dや設備投資など、震災の影響を受けて少なくなっているか？

A: 震災の影響を受けて少なくなっているのではない。常に付加価値に結びつく投資への選択と集中を実施しており、その結果少なくなっているものもある。

Q: 中華圏やアジアの営業利益率が低下しているが、売上・シェア等は今後どのように考えているか？

A: 年間では中華圏の営業利益が2桁の成長しており、アジアも含めて収益性も悪いとは考えていない。今後、IABのソリューション領域などを強化し、シェアアップにつなげていく。

Q:ものづくりのオムロンとして強みはどこにあるのか？

A:今回の震災対応の中でも発揮できたと考えているが、「自らも生産できる」、「改善提案ができる」の2点だと考えている。今後も強化し、活かせるようにしていきたい。

以上